徳洲会グループ
TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP

ALL LIVING BEINGS ARE CREATED EQUAL

徳洲新聞

TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP NEWS

No.1567

発行
一般社団法人徳洲会
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL：03-3262-3133

制作
一般社団法人徳洲会　広報部
TEL：03-3288-5580　FAX：03-3263-8125
Email：news@tokushukai.jp

野崎徳洲会病院附属研究所研究員
国際的な学術誌エディターに選任
科研費「挑戦的研究」採択も続々

野崎徳洲会病院附属研究所（大阪府）は、がん転移研究部の山口英樹・主幹研究員が国際的な学術誌のエディター（編集委員）に選任、また、疾患機能ゲノミクス研究部の圓岡真宏・主任研究員の研究課題が科学研究費助成事業（科研費：国が交付する競争的研究資金）の「挑戦的研究（萌芽）」に採択されるなど、着実に成果を上げている。徳洲会グループは臨床医療に注力すると同時に、医学の発展に貢献するため学術・研究活動を推進しており、各専門領域の学術集会の独自開催に加え、個々の病院や多職種が日々の臨床の成果を生かした学術・研究活動に従事。また同研究所を含め５病院が文部科学省から研究機関として指定を受けている（**表**）。

エディターの山口・主幹研究員 がんに関する基礎研究分野担当

山口・主幹研究員がエディターに就任したのは、『Scientific Reports』（シュプリンガー・ネイチャー発行）という自然科学全般を対象としたオープンアクセスの国際的な学術誌。影響度を示す指標であるインパクトファクター（掲載された論文が他の論文で引用された回数によって算出）は 4.9 と高い評価を受けている。長年にわたる研究業績が国際的に認められた結果で、山口・主幹研究員は、がん関連の基礎研究分野を担当する。

「とても名誉なことだと受け止めています。私自身は 30 年近く、がん転移の仕組みやプロセスを解明する研究に取り組んできました。この 15 年ほどはスキルス胃がんや腹膜播種を主な研究対象とし、転移の抑制に効果がある創薬などを目指して研究を続けています。著名な学術誌のエディターを務めることで当研究所の認知度向上に寄与し、質の高い論文を世に送り出すことで科学全体の発展に貢献していければと考えています」（山口・主幹研究員）

エディターの役割は、『Scientific Reports』事務局から依頼された専門分野の論文に対し、精査したうえで、まず論文の内容が同誌のポリシーに合致し科学的な質が保たれているかを確認。次に適切な査読者を選定し、その後、査読者のコメントをふまえて「採択」や「却下」、修正・再投稿を促す「改訂」といった判断を下す。


「質の高い論文を世に送り出したい」と山口・主幹研究員


「発達障害の治療法確立を目指します」と圓岡・主任研究員


野崎病院附属研究所は動物実験施設も有する（写真はマウスに試薬を注射する圓岡・主任研究員）

徳洲会グループの文部科学省指定研究機関

札幌東徳洲会病院医学研究所
千葉徳洲会病院臨床研究部
東京西徳洲会病院臨床研究支援センター
湘南鎌倉総合病院臨床研究センター（神奈川県）
野崎徳洲会病院附属研究所（大阪府）

圓岡・主任研究員は発達障害改善 不要なシナプス選択的除去で検証

圓岡・主任研究員の研究課題は「成熟脳における不要シナプスの選択的除去による神経回路再編と発達障害治療戦略の創出」。シナプスは脳内の神経細胞同士の接合部を指し、生体が複雑な活動を行う際に必要な情報伝達を担う。同研究は発達障害の発症に関与するとされる不要シナプスを選択的に除去し、分子標的アプローチによる治療法の確立を目指す世界初の試み。

挑戦的研究（萌芽）は「これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究」と定義。同研究所は、継続中の研究課題を含めると現在 12 件の科研費を獲得しており、AMED（日本医療研究開発機構）や複数の民間助成金なども精力的に獲得し、研究活動を一層加速させている。

ヒトの脳内では 2 歳前後の発達期にかけて多くのシナプスが爆発的に形成され、通常は刈り込み（除去）というプロセスを経て、“交通整理”されるように必要なシナプスだけが残る。それが適切に除去されないことが発達障害の発症に関与していると考えられている。発達障害の根治療法はいまだ存在しない。

「本研究では、神経細胞に発現するタンパク質の一種を欠損させた発達障害モデルのマウスを用い、近年開発された不要細胞除去技術（Crunch）を活用して標的シナプスを選択的に除去、従来困難とされてきた発達期の神経回路異常の後天的な改善について、検証を行います」（圓岡・主任研究員）

現在は動物実験の段階だが、研究が進展すれば、将来的にはヒトの発達障害の新規根治的治療法の創出につながる可能性が期待できる。

2029年6月開院予定の新病院
「（仮称）東松戸福祉医療センター」
医療法人徳洲会が新築工事地鎮祭


式典後に列席者で記念写真を撮影

医療法人徳洲会は10月10日、「（仮称）東松戸福祉医療センター新築工事地鎮祭」を建設予定地（千葉県松戸市高塚新田字天神山123-13）で執り行った。式には東上震一理事長をはじめ三角和雄・副理事長（千葉西総合病院院長）ら徳洲会関係者、地元の行政、医師会関係者らが列席した。

神事後、挨拶に立った東上理事長は、新病院について、同じ松戸市に急性期の千葉西病院があることに触れ、同院の機能を補完する形で「地域の方々に一層安心していただけるトータルな医療をお届けできることを祈っています」と期待を寄せた。

また、徳洲会グループの現状も紹介。「北海道から沖縄県まで、日本の各地で医療の拠点をつくりながら、その地域の方々に安心して喜んでもらえる医療を届けたい」という思いを明かし、「今日は医師会の先生も来られています。一緒に力を合わせて、松戸市の方々に良い医療を届けたいと思います。これからも頑張ってまいります」と締めくくった。

その後、地域を代表して松戸隆政・松戸市長が挨拶。新病院に対して「今後ますます需要が増していく松戸市の回復期医療をはじめ、なくてはならない重要な医療機関になるものと期待しています」と切り出し、「引き続き松戸市としても連携させていただきながら、東葛地域（松戸市を含む千葉県北西部エリア）の医療を共に支えていければと思っています」と力を込めた。

新病院は敷地面積２万5,000㎡（7,562坪）。2029年６月にオープン予定。

与論&沖永良部病院
合同QI大会を初めて開催
双方の職員が発表に刺激

鹿児島県の奄美群島にある与論徳洲会病院と沖永良部徳洲会病院は 10 月 17 日、与論病院で合 同 QI（Quality Improvement=品質改善）大会を開いた。QI は、医療の質向上や業務改善などを目的とした活動の成果を発表する取り組み。これまでは各施設で行っていたが、今回、初めて合同での開催を試みた。現地参加と WEB 参加のハイブリッド形式を採用し、両施設から合計 70 人超の職員が参加した。

最優秀賞は松井・与論病院職員 「驚愕のコストダウン」を実現

当日は与論病院が 5 演題、沖永良部病院が 7 演題を発表。参加者による投票の結果、最優秀賞は与論病院の松井直樹・総務課職員が受賞した。演題テーマは「ひそかに続けた『6 手間』と驚愕のコストダウン結果」。出張や研修、応援などにともなう航空券の費用について、株主優待割引を活用したところ、昨年 11 月中旬から約 11 カ月間で 162 万 1,030 円のコストダウンにつながったことなどを発表した。2 位は与論病院の中西愛海看護師と山野海咲看護師（演題名：医療用酸素コスト算定漏れゼロを目指した取り組み）、3 位は沖永良部病院の川添祥・内科医師（演題名：定期処方患者の完全予約制と定期検査導入に伴う外来診療改善への取り組み）、4 位は与論病院の土持智礼・診療放射線技師（演題名：紹介患者さんの在院時間削減に向けた取り組み）、5 位は同院の高杉香志也院長（演題名：インシデントレポート増加の取り組み 医局からの報告 6 倍へ）が受賞した。


現地参加の両職員（前列中央が高杉院長、その右が藤崎院長）。与論島の形を手でイメージ


部署で取り組んだ成果を発表する松井職員

両施設の院長賞も設け、高杉院長は沖永良部病院の森下那海・理学療法士に、沖永良部病院の藤崎秀明院長は与論病院の川上悠理恵助産師に贈った。最後に両施設の幹部が総評し閉会。どの職員も他院の発表を聞いて刺激を受けていた。高杉院長は「困っていることも楽しいことも共有する大変良いイベントになりました」と手応えを示し、「今度は沖永良部病院で」と早くも続ける意向を見せた。藤崎院長も「似た環境なので合同で開く意義は大きい」と手応えを示す。「奄美群島では徳之島、沖永良部島、与論島は南三島と呼ばれるので、徳之島徳洲会病院も一緒にできたら」と意欲的だ。